



平成 26 年 5 月 15 日

各 位

会 社 名 燦キャピタルマネージメント株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 前田 健司  
(コード番号:東証JASDAQ2134)  
問 合 先 取締役 経営管理本部 本部長 桐島 悠爾  
(TEL. 06-6205-5611)  
U R L <http://www.sun-capitalmanagement.co.jp/>

平成26年3月期 決算に関する補足説明に関するお知らせ

平成26年3月期 決算(平成25年4月1日～平成26年3月31日)につきまして、下記のとおり補足説明致します。

記

《平成 26 年 3 月 期 連結業績について》

当社グループの平成26年3月期 連結業績は、売上高462百万円(前年同期比59%減)、営業利益6百万円(前年同期は230百万円の営業損失)、経常損失38百万円(前年同期は275百万円の経常損失)、当期純利益57百万円(前年同期は1,466百万円の当期純損失)となりました。

(単位:百万円)

	平成 25 年 3 月 期 実績	平成 26 年 3 月 期 実績	前年同四半期 比(%)
売 上 高	1,126	462	▲59.0
営 業 利 益	▲230	6	—
経 常 利 益	▲275	▲38	—
当 期 純 利 益	▲1,466	57	—
1株当たり当期純利益(円)	▲248.13	7.67	—

(コメント)

- ① 売上高につきましては、期末に向けた取り組み案件の準備は進んでいた業務提携先との流動化案件が成約には至らなかったこと、前期に事業のリストラクチャリングの一環として、連結子会社を2社(燦アセットマネージメント株式会社(現 サムティアセットマネジメント株式会社)、株式会社グランドホテル松任(現 株式会社グランドホテル白山))を売却したこと等が主な要因で、前年同期と比べ、59%減少しております。
- ② 一方、営業利益につきましては、上記売上は大きく減少しておりますが、当該連結子会社の売却、役員報酬等の削減、業務効率化・契約条件見直しによるコストの削減等により、黒字転換しております。また、経営利益につきましては、赤字幅は減少しているものの、支払利息等を吸収する程までには至っておりません。



- ③ なお、当期純利益につきましては、第2四半期に計上しました投資先(株式会社エスシステム)の向け貸倒引当金の取り崩し、及び同事業損失引当金の戻入れによる、営業外収益(11百万円)及び特別利益(103百万円)が大きく寄与しております。なお、前期に事業のリストラクチャリングの結果、保有不動産の減損損失、子会社株式売却損等の多額の損失を計上し、また、保守的な見地から、投資先の債権等に対して十分な引当金を計上したのに対し、今期におきましては、多額の営業外費用及び特別損失の発生はしていません。

#### 《平成26年3月期 単体業績について》

当社の平成26年3月期 連結業績は、売上高231百万円(前年同期比28.8%減)、営業利益24百万円(前年同期は168百万円の営業損失)、経常損失19百万円(前年同期は279百万円の経常損失)、当期純利益79百万円(前年同期は1,265百万円の当期純損失)となりました。

(単位:百万円)

	平成25年3月期 実績	平成26年3月期 実績	前年同四半期 比(%)
売上高	325	231	▲28.8
営業利益	▲168	24	—
経常利益	▲279	▲19	—
当期純利益	▲1,265	79	—
1株当たり当期純利益(円)	▲214.12	▲10.73	—

#### 《資金調達について》

平成25年8月14日に決議致しました第三者割当による新株式(金銭出資及び現物出資(デット・エクイティ・スワップ))及び第3回新株予約権の発行により、以下のとおり資金の調達を予定どおりすべて達成しております。

今後につきましても、収益の実現に有益な資金調達について、鋭意検討してまいります。

(単位:百万円)

	金額
新株式発行による調達(平成25年8月30日完了)	124
内、現物出資	94
第3回新株予約権の行使による調達(平成25年11月25日完了)	193
合計(現物出資によるものは除く)	223



### 《債務超過の解消について》

当社は、前期(平成25年3月期(第21期))決算において、債務超過(自己資本▲101百万)となっておりましたが、上記資金調達を確実に実現したこと等により、平成26年3月31日現在、自己資本273百万円であり、債務超過を解消しております。

### 《平成27年3月期 連結業績予想》

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株あたり 当期純利益
通 期	615	115	88	63	円 銭 6 90

#### (コメント)

- ① 業務提携先との関西・関東を中心とした不動産流動化・開発事業等が、次期以降本格的に収益に寄与する見込みであり、通期の業績予想につきましては、今期と同水準としております。また、小規模太陽光分譲販売事業につきましても、今期構築した販売体制・実績をベースとして、次期以降において実績を積み上げていく見込みであります。
- ② 今後は、直接金融のみならず、金融機関等の間接金融からの資金調達にも努め、さらなる収益機会の獲得の機会を創出して参ります。

現在、今後の展開を踏まえた事業計画について、決算発表時(平成26年5月15日予定)をめどに開示させて頂く予定でしたが、現在進捗中のプロジェクト及び今後の事業展開を含め、調整の必要性が生じておりますので、内容が整い次第、早期開示させて頂く予定であります。

以 上

※本資料に掲載されている業績予想および業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。